

映画鑑賞悪戦苦闘記

内藤 真理子

コロナ自粛が解除になった。もう飲み会をしても良いのだ！早速実践した。巣籠りで老けた分、何とかして若返らなくっちゃ！

そこで、今年のカンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞した今が旬の映画「ドライブ・マイ・カー」を観よう！と覚悟を決めネットで調べた。

上映館はテアトル新宿、昼間の時間を選んでいざ出陣。何と言っても一人で映画館に入るのは何十年ぶりか、新宿に行くのさえ何年振りだろう。早めに家を出たのに迷いに迷って着いた時には時間ギリギリ。

「一枚下さい」

「割引の使用はよろしいですか」？：：：あ、シニア割引があるのですか」嬉しい反面、誰が見ても老人よね、と当たり前なのにショックを受けた。

入った時にはもう始まっていて、映画館特有の大音響で画面いっぱいにはラブシーンが繰り広げられている。その中を床に書かれたアルファベットを頼りにすり足で席に落ち着いた。画面ではアクロバットのようなラブシーンがまだ続いている。私は、遅れて入ったせいで、ドキドキして画面についていけない。

この映画を観ようと決めてから、原作の村上春樹の「ドライブ・マイ・カー」を読んだのがまずかった。

もう始まっている画面を見ながら、これは小説のどの場面だろうと頭の中で思い返す。映画は脚色がしてあるので原作とは違う。違いが気になってますます映画に入り込めない。

もともと心理劇で、主人公の家福は亡くなった妻をとっても愛していたのだが、女優である妻は、相手役になった男と関係を持っていた。妻が夫の自分に不満を持っていたとは思えない。妻はどんな気持ちで？？、と謎を解いていくのが元の筋。

俳優は魅力的だし、ロケ地の風景も美しい。ストーリーも良く解った。国際的な脚本賞を受賞するほど巧みな心理描写がなされているのも、俳優の熱演もおぼろげながら分かった。

だが、心理描写の意味が私にはさっぱりわからなかった。
ええっ！

もう一度観に行かなくっちゃあ、シルバー割引で！